

ランチョンセミナー9

11月16日（日）11:30-12:30 第3会場（2F 中会議室 201A）

共催：積水メディカル株式会社

独り立ちをするときに役に立つ凝固検査の基礎知識

1）夜間当直者および若手技師の役に立つ凝固検査の基礎知識

2）凝固検査の異常値を理解する（血液凝固線溶検査結果早見表より）

座長：草間孝行（新潟県立十日町病院）

演者：須長宏行・服部和久（積水メディカル(株)検査事業部カスタマーサポートセンター学術企画グループ）

血液凝固検査は生化学検査と比べて採血や検体保存の影響を受け易い検査です。採血量が規定量より少ない、ヘパリンが混入、また保存条件や遠心条件の違いによって凝固検査のデータに違いが生じます。採血量が少ない場合の注意点と検査値に与える影響、更に乳び検体の対処の仕方について解説します。また症例を1つ紹介し、凝固検査の関りについて考察いたします。

凝固検査の異常値は、①病態（止血異常、血栓症等）や②治療（抗凝固薬等の投与等）を反映した異常値、および③分析系（装置、試薬等）や④採血・採血管の取扱いに由来する異常値に分類することができます。そして、凝固検査では「異常値の由来」を早く識別できる能力が必要と考えられます。今回のランチョンセミナーではPT、APTT、フィブリノゲン、およびDダイマーでふり分けされる異常値の特徴について解説いたします。

さらに、本年4月に新発売された血液凝固自動分析装置についてもご紹介いたします。